令和 3 年 9 月 14 日

令和 2 年度　卒業時満足度調査 結果と分析
-カリキュラム編成・運用・DP について-

1. 調査方法の分析

1）調査期間

令和 2 年 3 月上旬から 3 月 19 日

2）対象

令和 3 年 3 月卒業見込　4 年生 98 名

3）方法

2020 年度より Google forms を活用した調査方法を採用した。

4）結果

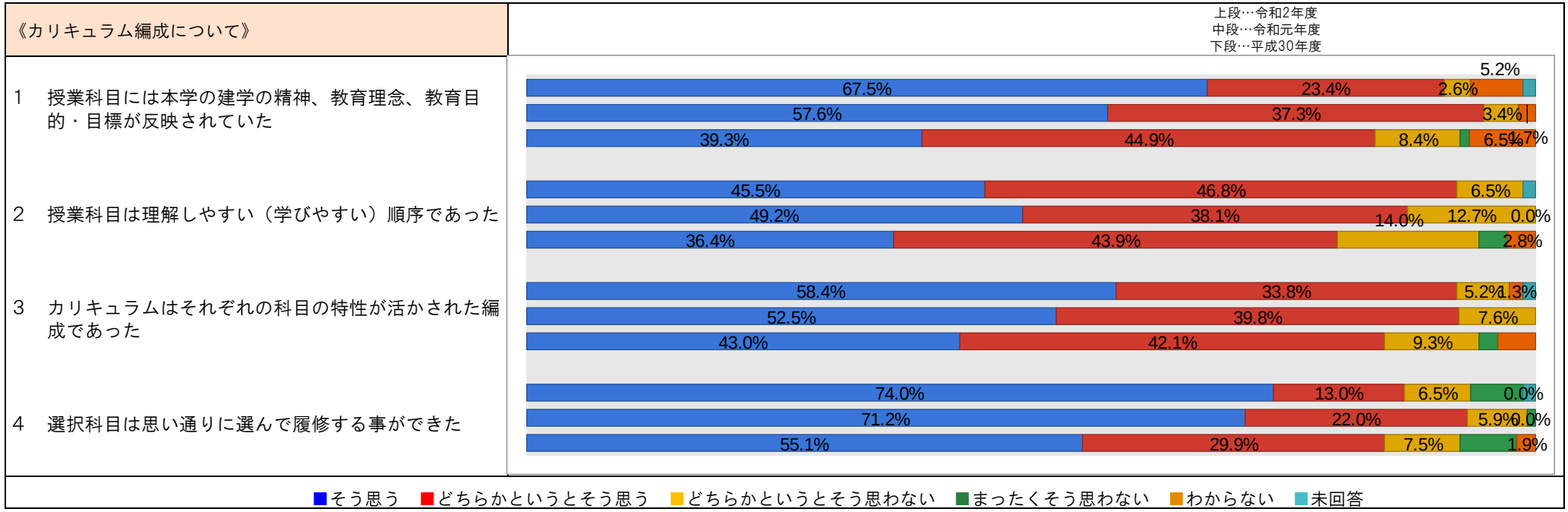
回収率 78.6%（回数数：77 部）

【考察】

これまで任意の調査としながらも、調査用紙の回収方法等の影響があり、概ね 100％の回収率を保つことができていた。2020 年度から対象の調査に参加することの任意性の担保、集計に伴う業務改善の視点から、調査方法を変更したことが前年度（回収率 100.0%）と比較した場合、回収率の低下となっていると考える。調査期間の設定やリマインドメール等、対象への働きかけが必要である。

2. 結果概要と分析

（1）カリキュラム編成について



（以下、自由記述）

・実習に向けて、座学の知識をいかすことができなかった。

・少しだけ 1.2 年の負担が大きかった。

・一年、二年のフルコマが多い。

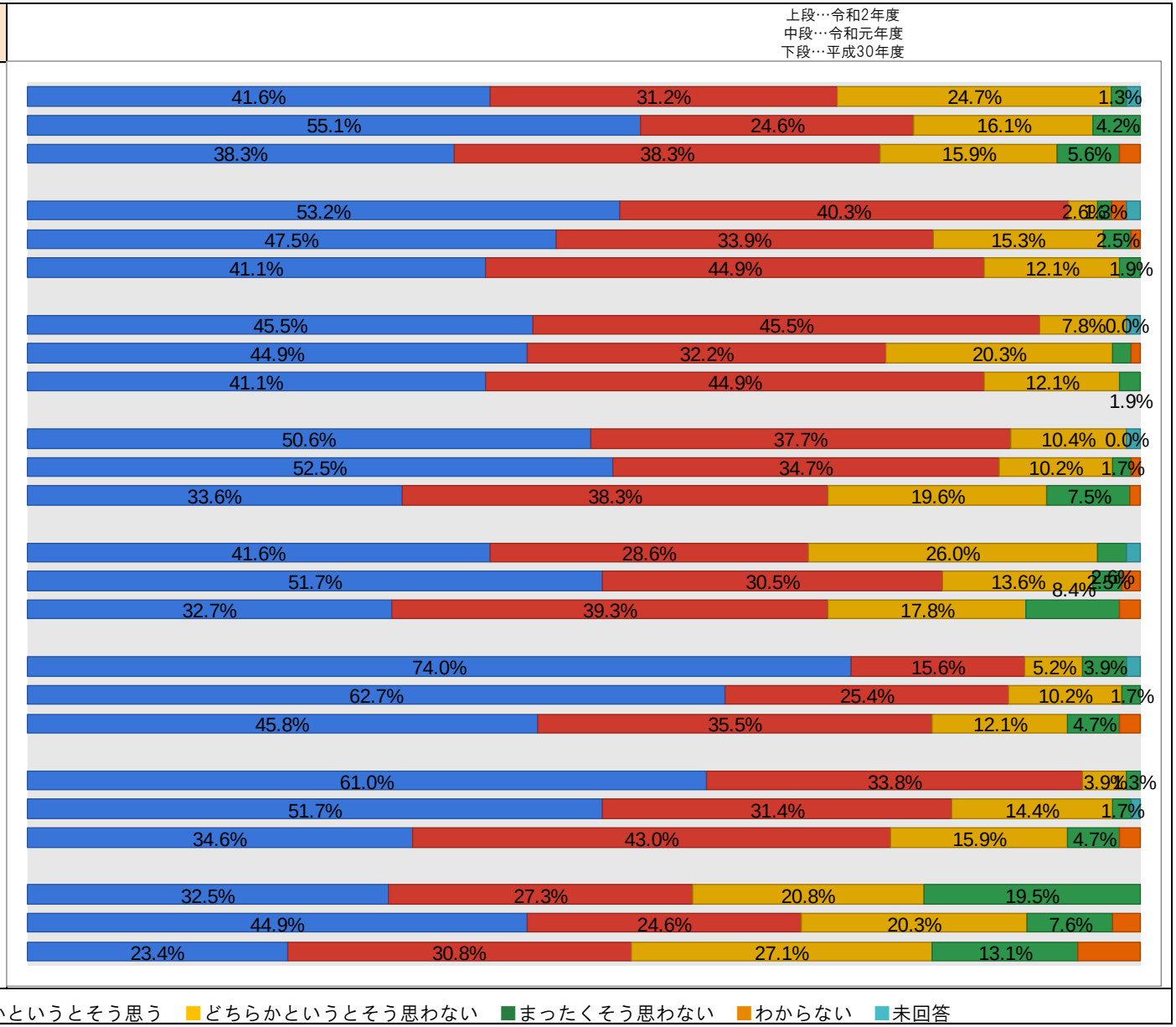
・卒業論文の時期を早めてほしい。

【考察】

過去三年間の調査結果によると、「そう思う」「どちらかというとそう思う」を合わせた割合は年々増加傾向にあり 80％以上となっている。教育理念、教育目標等が科目に反映され、学びやすい編成・順序性であったと考える。一方で、本学の建学の精神・教育の理念を基盤とした各科目における独自性に関する評価 3 項目では、前年度と比較し若干の低下がみられる。赤十字の基本理念とそれを基盤としたカリキュラムに魅力を感じ、本学を志望・入学してきた学生の期待に沿う科目の特性および授業内容の構成に至っていないことが推察される。また、「4. 選択科目は思い通りに選んで履修することができた」については、「まったくそう思わない」割合の増減がみられる（平成 30 年度 5.6％、令和元年度 0.8％、令和 2 年度 5.2％）ことに留意する必要があり、年度により開講しない選択科目があることによる影響が考えられる。1・2 年次のカリキュラムでは、授業進行上の過密性が前年度同様に指摘されている。次年度は新カリキュラムの卒業生となるため、カリキュラム変更による変化を確認する。

（2）カリキュラムの運用について

《カリキュラムの運用について》



（以下、自由記述）

・テストも同じ時期にたくさん重なる時があって、効果的に学習できなかったりすることがあった。

・大きな講義室だと真ん中にテレビがあってもスライドが見えにくい時がありました。

【考察】

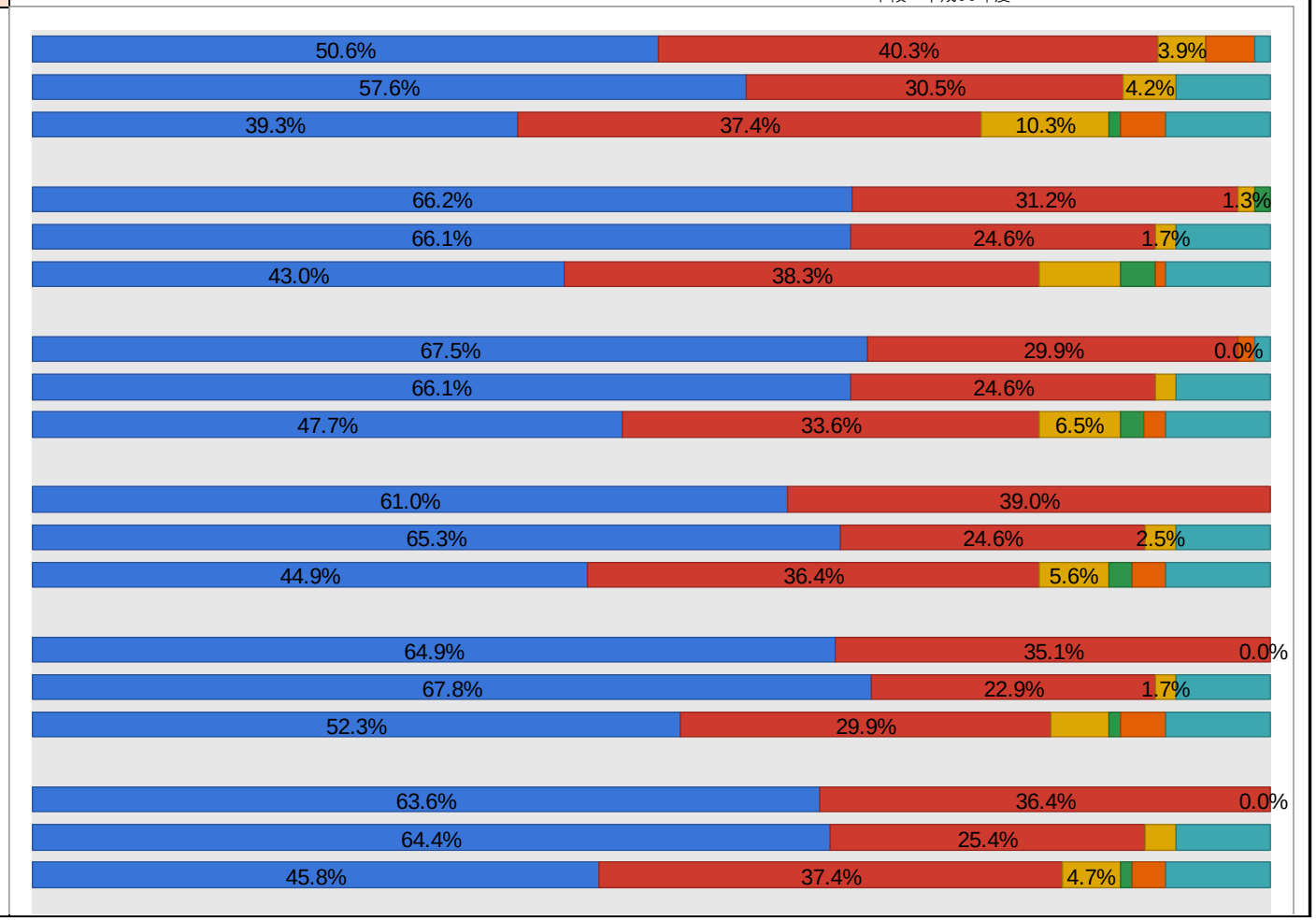
過去三年間の調査結果を見ると、「そう思う」「どちらかというとそう思う」を合わせた割合は概ね年々増加傾向にあるが、満足度の増減がみられる項目として「1．教室の広さが適切であった」「5．一日に実施する試験科目数は適切であった」「8．授業内容についての質問などで教員のオフィスアワーを活用した」が挙げられる。

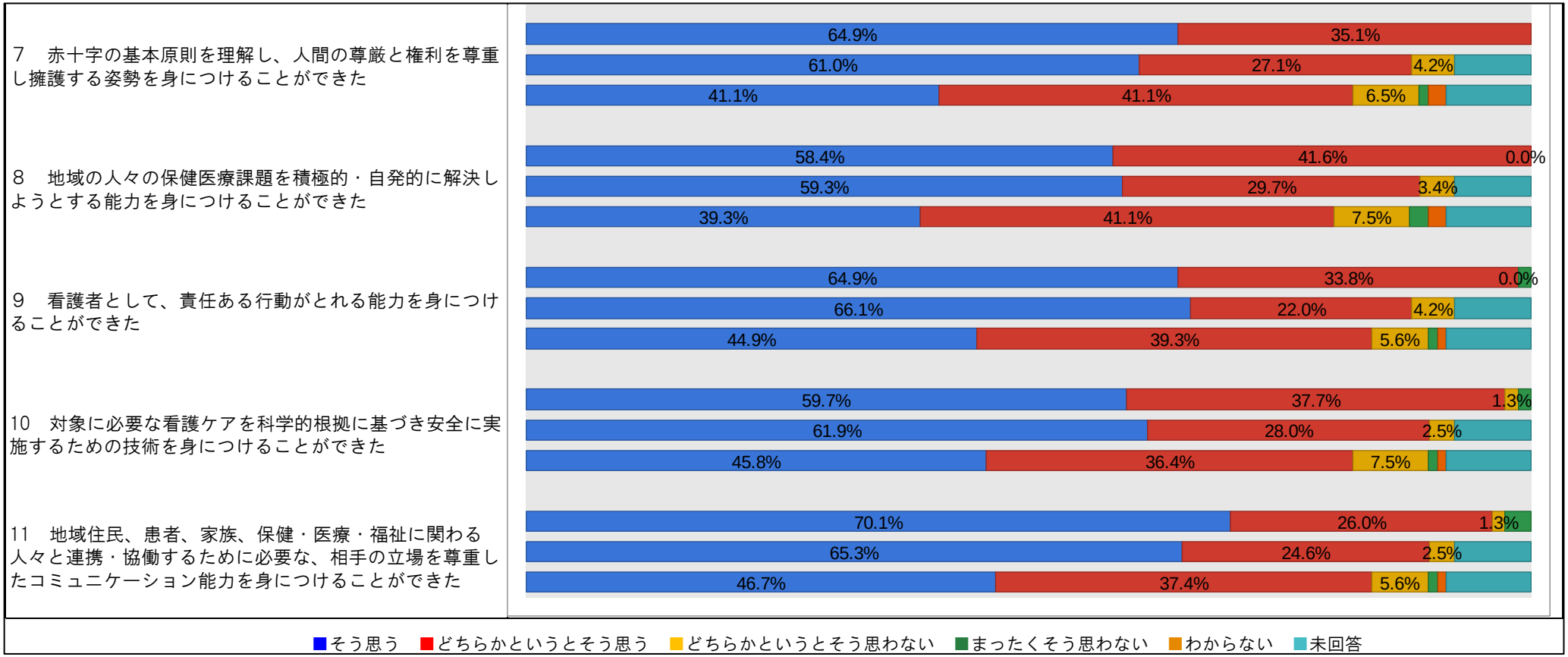
項目 1 については、令和 2 年度卒業の学生が新型コロナウィルス感染症の対策を取ったうえで授業を行うには講義室の広さが十分ではないと解釈した可能性も否定できない。また、項目 8 については令和 2 年度感染症対策としてオンライン上のやり取り（メール、ZOOM、Google Classroom など）が増えたことから、オフィスアワーの活用を必要としなかったことが考えられる。項目 5 について、前年度同様、1 日 3 科目以上の試験が行われないような調整は引き続き必要である。

（3）DP について

《ＤＰについて》

上段…令和2年度
中段…令和元年度
下段…平成30年度





【考察】

過去 3 年間の調査結果を見ると、調査方法を紙媒体から Google フォームに変更した影響か、未回答の設問は減っている。令和 2 年度は「そう思う」「どちらかというとそう思う」を合わせた割合がいずれも 90%以上と高い傾向がみられる。しかし、「どちらかというとそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した割合が比較的多かった設問は「1　多様な価値観や文化的背景を持つ人々と向き合う力を養うための幅広い教養を身につけることができた」であった。例年、同様の回答傾向がみられることから、卒業時に到達したか否かの判断が難しい設問である、又は実際に十分に養成できていない可能性が考えられる。

3. 今後の改善に向けた設問項目の検討について

今までは、5 つの DP に関して上記 11 項目の設問により、到達度の評価を行っていた。これらの設問によって DP の評価が行えているかどうか、以下の通り検討を行うために、今後の設問内容改定に向けた意見を挙げた。以下に、「本学の DP」、および卒業時満足度調査で調査する「DP に関する設問項目」を示す。